

トラフグ調査

山田 秀樹・伊藤 毅史・吉田 幸史

平成17年より実施されてきた九州・山口北西海域トラフグ資源回復計画が終了したが、同計画で実施されていた措置は平成24年度から新たな枠組みである広域資源管理方針に基づき継続して実施されている。この方針のもと、トラフグの放流効果等を把握するために山口県（外海）、福岡県、長崎県、熊本県と連携して標識放流および追跡調査を実施した。

方 法

1 放流

放流種苗は、（株）長崎県漁業公社が生産した種苗45,8千尾を用い、内部標識として耳石をALC染色するとともに、10千尾に外部標識として左胸鰭カットを施し、令和4年7月1日に杵島郡白石町の新有明漁港で放流した（図1）。

放流種苗の平均全長は70.0mmであり、ALC染色は、仔魚が孵化した時点で1度行った（表1）。



図1 事業実施場所

表1 佐賀県有明海に放流したトラフグ種苗の概要

放流				内部標識		外部標識
年月日	場所	平均全長 (mm)	尾数	標識径 (扁平石)		左胸鰭切除 (尾数)
				1重	2重	
R4. 7. 1	白石町新有明漁港	70. 0	45, 800	孵化仔魚染色	-	10, 000

2. 追跡調査

1) 沖合延縄調査

馬渡島の延縄漁船を対象に調査を実施した。トラフグの水揚げ時に確認された外部標識個体の精密測定を行うとともに、耳石のALC染色を観察し放流群を特定した。また、水揚げ個体の一部について全長測定を行った。

2) 市場調査

玄海漁協魚市場において、月1回程度の頻度で外部標識個体の確認を行った。

結 果

1 追跡調査

1) 沖合延縄調査

外部標識個体は8尾確認され、耳石を分析したところ、2尾が長崎県放流群、1尾が熊本県放流群、1尾が大府放流群、4尾が佐賀・長崎県合同放流群であった。

調査個体の全長は、374mmから612mmの範囲であった（図2）。

2) 市場調査

市場調査において外部標識個体は確認されなかった。

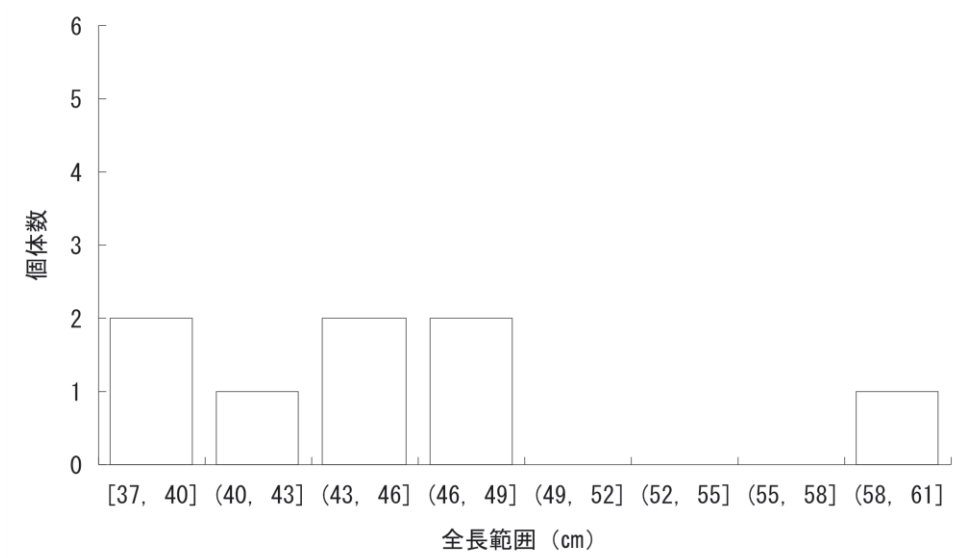


図2 外部標識個体の全長組成